



2025年10月期 通期決算補足説明資料

株式会社オービス（証券コード：7827）

2025年12月12日



売上高

(2024年10月期実績)

12,639百万円

▲ +10.4%

(11,444百万円)

営業利益

(2024年10月期実績)

658百万円

▲ +13.6%

(580百万円)

経常利益

(2024年10月期実績)

643百万円

▲ +11.3%

(578百万円)

売上総利益

(2024年10月期実績)

2,327百万円

▲ +7.8%

(2,158百万円)

営業利益率

(2024年10月期実績)

5.2%

▲ +0.1%

(5.1%)

親会社株主に帰属する
当期純利益
(2024年10月期実績)

421百万円

▲ -3.0%

(434百万円)

ハウス・エコ事業において、大型物件の完工やM&A効果もあり、**増収**を実現。
 木材事業において、**歩留率の低下**があったものの、
 ハウス・エコ事業において、受注時採算性の改善や内製化比率の拡大により、**利益率が向上**。
 木材事業の落ち込みをカバーし、全社ベースでは**過去最高の売上高**を達成。

決算 ハイライト		売上高	12,639 百万円	+10.4% (前期比)
		営業利益	658 百万円	+13.6% (前期比)
		経常利益	643 百万円	+11.3% (前期比)
ト ピ ク ス	木材事業	梱包マーケットが低迷する中、原木消化量は前期比 0.7%の微減に抑え 、 高い工場稼働率 を維持。外国産材から国産材への切り替えが更に加速。国産材(杉)の出荷比率は前期比 3%増の69% となり、外国産材(NZ松)を大きく上回る。		
	ハウス・エコ事業	2024年3月に連結子会社化した 寿鉄工株式会社 の業績寄与が当期から本格化。官公庁大型物件の完工もあり、 売上高、営業利益とも高い成長率 を実現。		
	太陽光発電 売電事業	パワーコンディショナーの故障 があったものの、日照時間が長くなる4月～7月は天候に恵まれたことにより、 売電収入が増加し、増収増益に寄与 。		
	ライフクリエイト 事業	一部料金の 値上げ効果 があったものの、クラブハウス及びその他付帯設備等の 修繕・改修に係る費用が増加 。		

2025年10月期 通期 連結業績



木材事業は、中国経済の低迷により**梱包マーケットが低迷**するも、
 これまでとは**異なった市場・分野での顧客層が広がり**をみせている。
 一方、ハウス・エコ事業は、**大幅な増収増益**を達成。グループ全体としては、**営業利益の増加**を実現。

(単位:百万円)	2024年10月期	2025年10月期	増減額	前期比
売上高	11,444	12,639	+1,195	+10.4%
木材事業	7,349	7,442	+93	+1.3%
ハウス・エコ事業	3,251	4,357	+1,106	+34.0%
太陽光発電売電事業	447	456	+9	+2.0%
ライフクリエイト事業	380	382	+1	+0.5%
不動産事業	16	-	-16	-
売上総利益	2,158	2,327	+168	+7.8%
販売管理費	1,578	1,668	+89	+5.7%
営業利益	580	658	+78	+13.6%
木材事業	429	301	-128	-29.8%
ハウス・エコ事業	145	351	+205	+141.5%
太陽光発電売電事業	284	302	+17	+6.2%
ライフクリエイト事業	69	49	-19	-28.6%
不動産事業	9	-	-9	-
全社費用	-358	-345	+13	-3.6%
経常利益	578	643	+65	+11.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	434	421	-13	-3.0%

1 梱包マーケットは低迷するも、製・商品出荷量は前期と同水準を維持。

2 期首から寿鉄工株式会社の売上高が連結対象（前期は第3四半期以降(5月～10月)から連結）。当社において、官公庁の大型物件の引き渡しが完了。

3 パワーコンディショナーの故障があったものの、空梅雨の影響により日照時間が長く発電量が増加。

4 来場者数は微減、一部料金の値上げにより前期と同水準を維持。

5 2024年10月期に賃貸用不動産2棟を譲渡、不動産事業から撤退。

6 期首から寿鉄工株式会社の販管費が連結対象（前期は第3四半期以降(5月～10月)から連結）。昇給・賞与増による人件費が増加。

7 歩留率の低迷により減益。

8 受注時採算性の改善や内製化比率の拡大、価格転嫁等により大幅な増益を達成。

9 株式取得関連費用(アドバイザー費用等)の減少。

業績分析(売上高の増減要因)

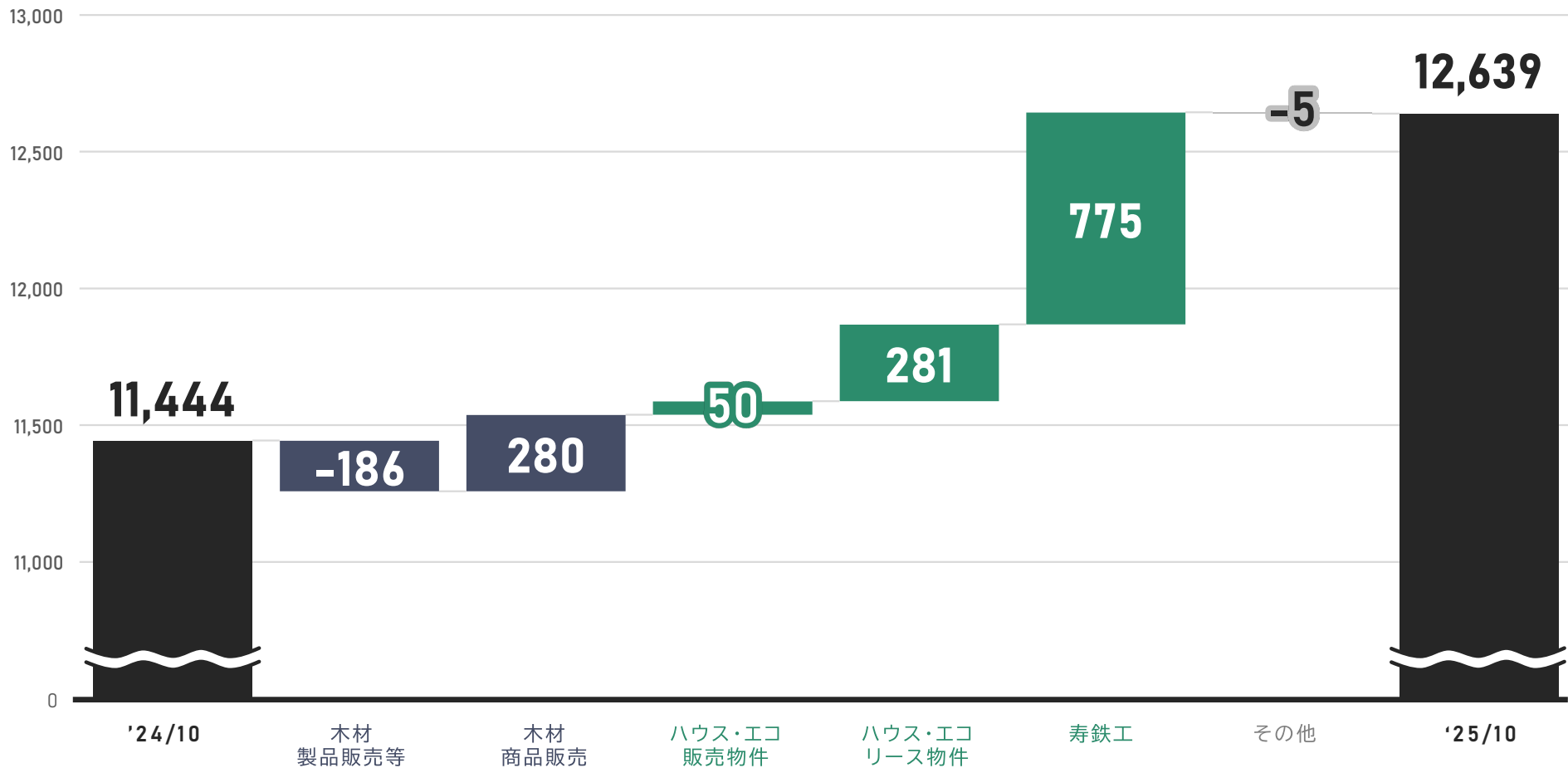
売上高

前期比



+1,195 百万円
+10.4%

(百万円) ■ 木材事業 ■ ハウス・エコ事業



業績分析(営業利益の増減要因)

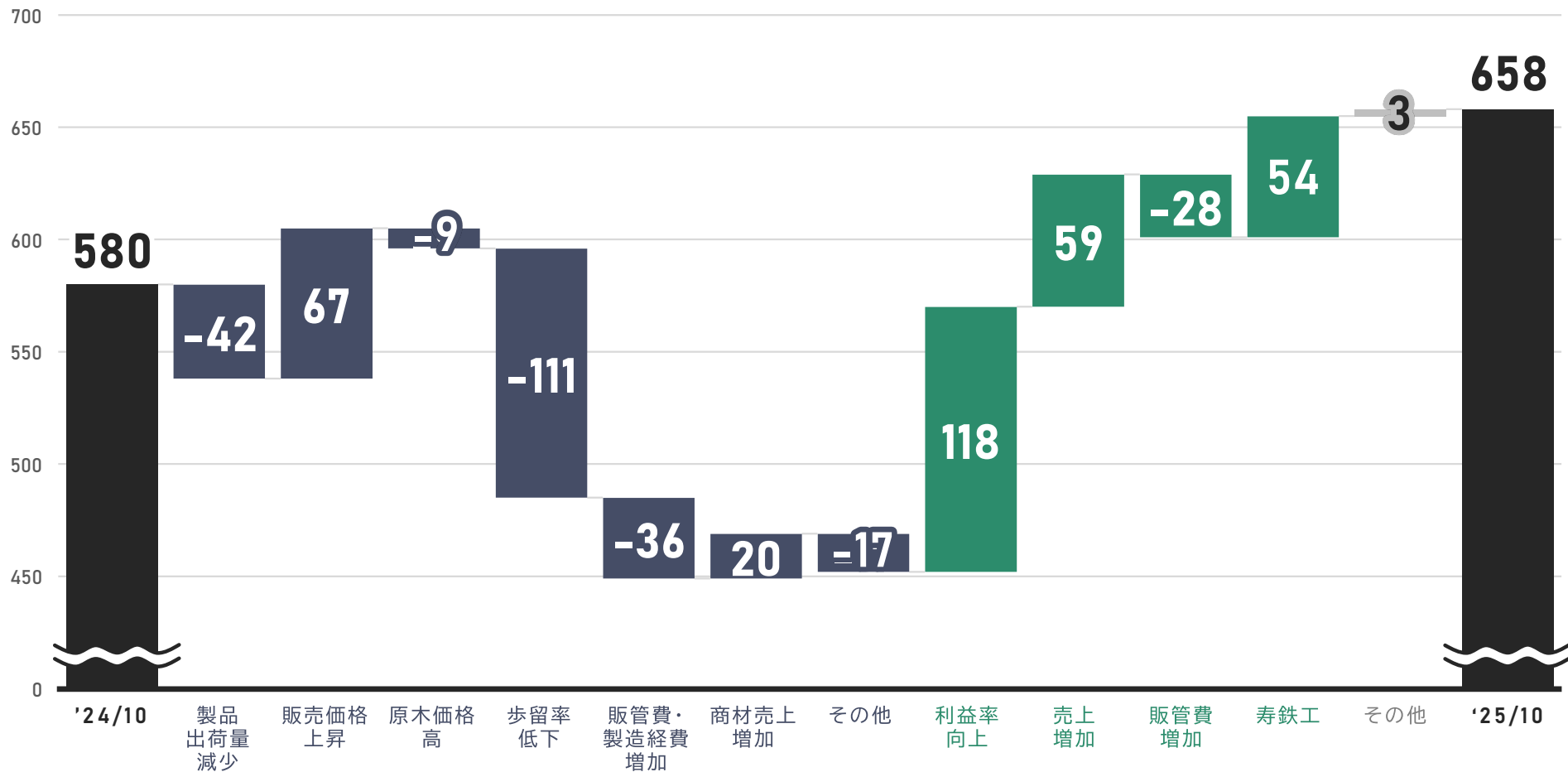
営業利益

前期比



+78 百万円
+13.6%

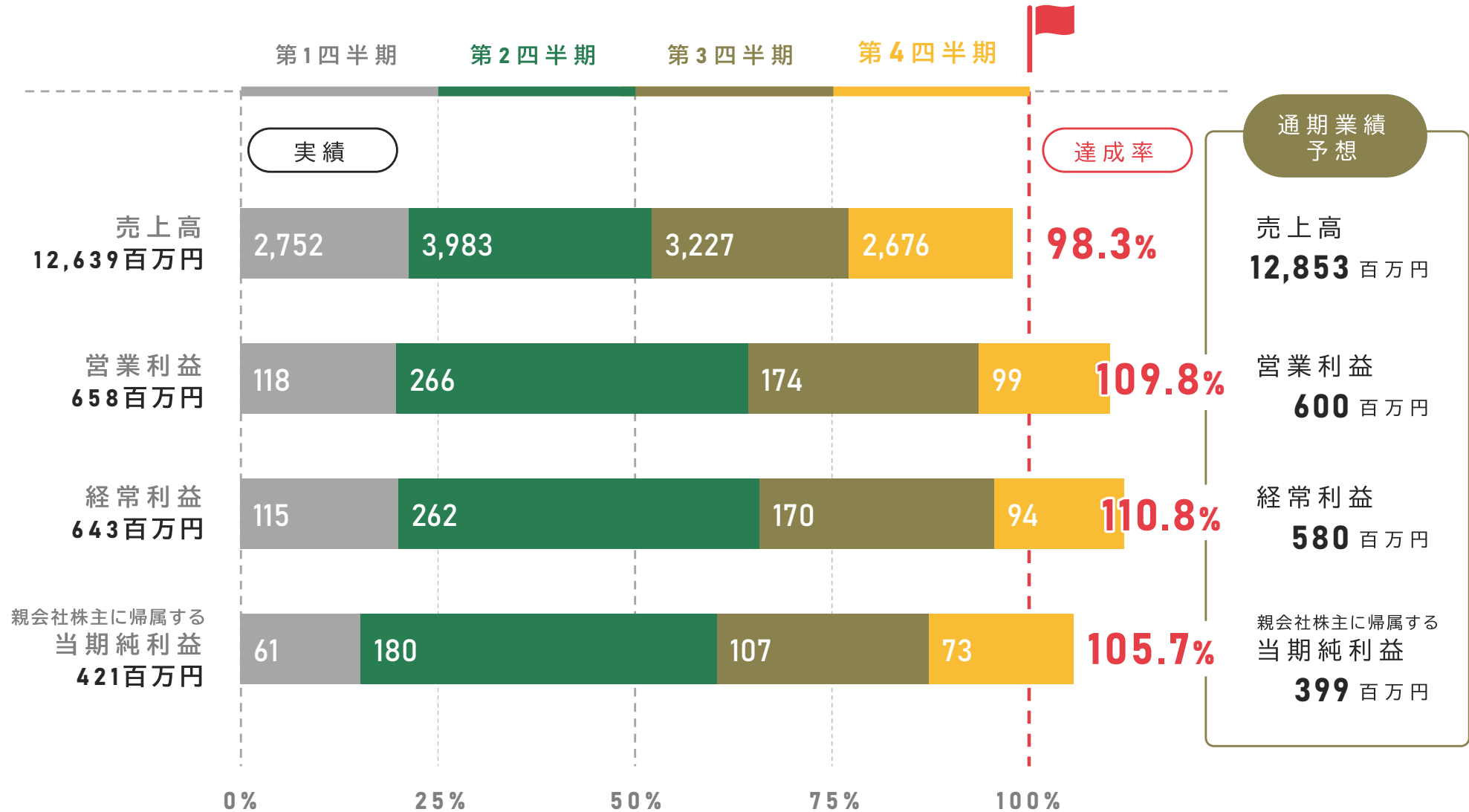
(百万円) ■ 木材事業 ■ ハウス・エコ事業



2025年10月期 通期 連結業績進捗率



売上高は概ね予想通り。
その他の各利益指標はハウス・エコ事業がグループ業績を牽引、
通期予想を上回る水準で着地。



売上高

(2025年10月期実績)

13,088百万円

▲ +3.6%

(12,639百万円)

営業利益

(2025年10月期実績)

550百万円

▲ -16.5%

(658百万円)

経常利益

(2025年10月期実績)

524百万円

▲ -18.5%

(643百万円)

売上総利益

(2025年10月期実績)

2,379百万円

▲ +2.2%

(2,327百万円)

営業利益率

(2025年10月期実績)

4.2%

▲ -1.0%

(5.2%)

親会社株主に帰属する
当期純利益
(2025年10月期実績)

354百万円

▲ -16.1%

(421百万円)

ハウス・エコ事業において、受注が堅調に推移、受注確度の高い案件も増加、**増収**を見込む。

人材の採用が進んでおり、人件費が大幅に増加、**減益**見込み。

木材事業において、完全週休2日制の導入に伴い**工場稼働日の減少**(前期比5.9%の減産)を見込む。

製材機械(2018年10月期取得分)の減価償却が2026年5月に終了、**増益**見込み。

グループ全体では2期連続して**過去最高の売上高を更新見込み**も人件費の増加もあり**減益**を見込む。

決算 ハイライト

売上高	13,088 百万円	+3.6% (前期比)
営業利益	550 百万円	-16.5% (前期比)
経常利益	524 百万円	-18.5% (前期比)

トピックス

木材事業

米国の関税政策や**中国経済の低迷**により梱包用木材市場の短期的な回復は見込めず。国産材の製材比率をさらに高め、新市場・新規顧客の開拓や顧客ニーズに応じた新明細の取扱いと柔軟な対応、**既存顧客の潜在的需要の掘り起こしに注力**。

ハウス・エコ事業

官公庁大型案件の受注取り込みや地域における**営業基盤の強化に引き続き注力**。設計課の新設による「設計力」、品質の高い「製造力」、当社と寿鉄工の「営業力」「連携力」に磨きをかけ、さらなる**顧客満足度の向上に努める**。

太陽光発電 売電事業

2026年10月期に系統連系して10年以上を経過する発電所があり、**パワーコンディショナー等の大規模修繕を計画**。

ライフクリエイト 事業

来場者数の目標を47,800名に設定。SNSやWEBの活用、アメニティグッズの充実を図り、若年層や女性プレイヤーの獲得を目指す。

2026年10月期 通期 連結業績予想



木材事業は、中国経済の低迷により**梱包マーケットが低迷し**、引き続き厳しい事業環境が予想される。
一方、ハウス・エコ事業は、**受注が堅調に推移**するものの、グループ全体としては**営業利益の減少**を見込む。

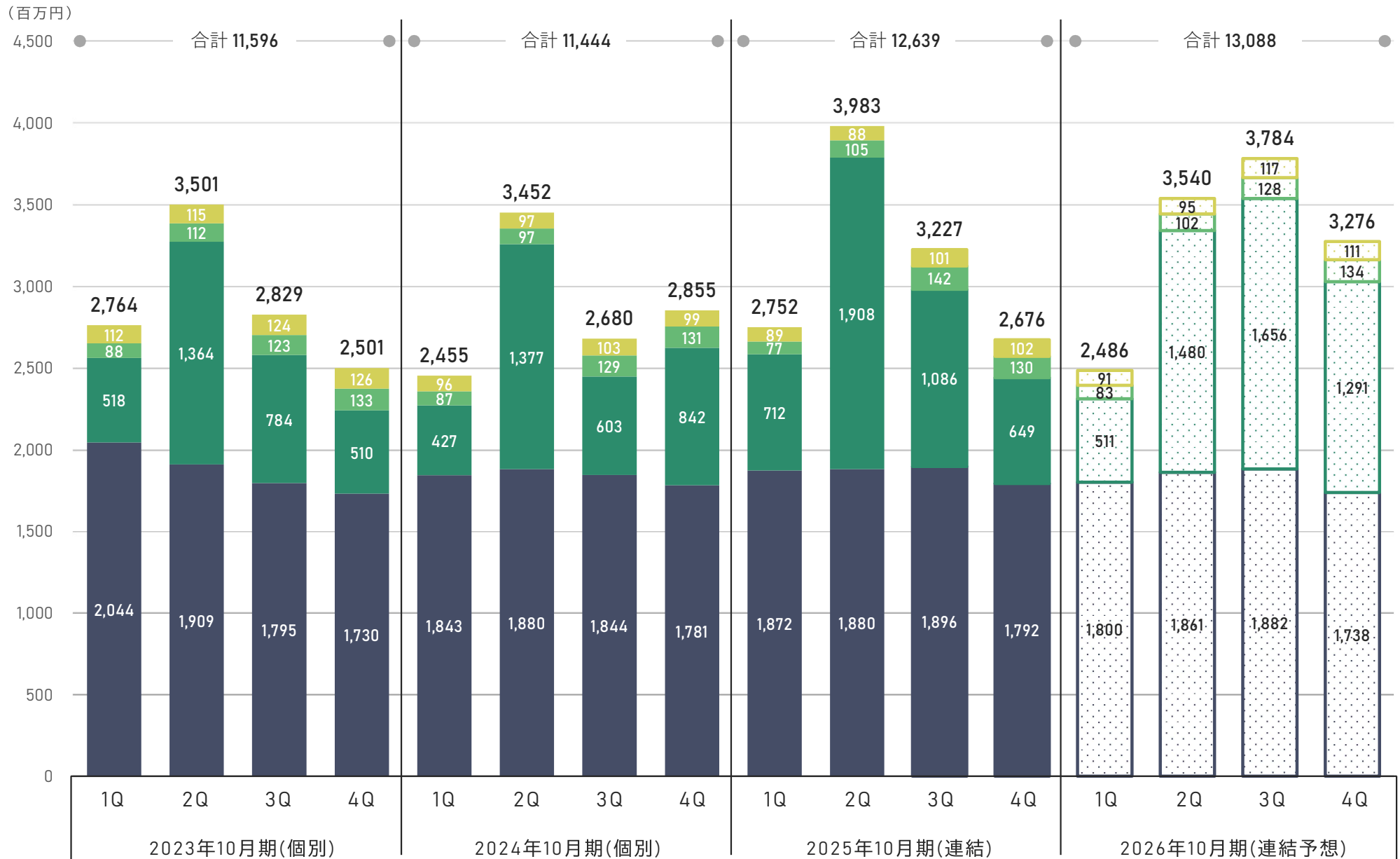
(単位:百万円)	2025年10月期(実績)	2026年10月期(予想)	増減額	前期比
売上高	12,639	13,088	+449	+3.6%
木材事業	7,442	7,283	-159	-2.1%
ハウス・エコ事業	4,357	4,939	+582	+13.4%
太陽光発電売電事業	456	449	-6	-1.5%
ライフクリエイト事業	382	416	+33	+8.8%
売上総利益	2,327	2,379	+51	+2.2%
販売管理費	1,668	1,828	+159	+9.6%
営業利益	658	550	-108	-16.5%
木材事業	301	380	79	+26.2%
ハウス・エコ事業	351	231	-119	-34.0%
太陽光発電売電事業	302	265	-37	-12.2%
ライフクリエイト事業	49	61	+11	+23.7%
全社費用	-345	-388	-42	+12.3%
経常利益	643	524	-118	-18.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	421	354	-67	-16.1%

- 1 完全週休2日制の導入により工場稼働日が減少。梱包マーケットの低迷により減収見込み。
- 2 当社において、官公庁案件を中心に高水準の受注残高を維持。受注確度の高い案件がグループ全体で増加。当社と寿鉄工の協力体制を強化、シナジー効果の最大化に取り組む。
- 3 資材、食材の価格変動にあわせた柔軟な料金設定を実施。コースメンテナンスのさらなる充実により、「選ばれるゴルフ場」として他ゴルフ場との差別化を図る。
- 4 人員増(グループ全体で21名増)及び昇給による給与水準の引き上げ等により、人件費が増加見込み。
- 5 2018年10月期取得の製材機械の減価償却が終了、増益見込み。
- 6 売上増に伴い売上総利益率の若干の低下を見込む。自動溶接ロボットの導入による減価償却負担が増加。人員増及び昇給による給与水準の引き上げ等により、人件費が増加見込み。
- 7 系統連系して10年以上経過する発電所に対して、パワーコンディショナー等の修理を計画。安定稼働を目的に部品交換を前倒し、減益見込み。
- 8 全社的にパソコンの入れ替え実施。役員報酬及び昇給による給与水準の引き上げ等により、人件費が増加見込み。

売上高(事業・四半期別)



■ 木材事業 ■ ハウス・エコ事業 ■ 太陽光発電売電事業 ■ ライフクリエイト・不動産事業



営業利益(事業・四半期別)



■ 木材事業 ■ ハウス・エコ事業 ■ 太陽光発電売電事業 ■ ライフクリエイト・不動産事業 ■ 全社費用



中期経営計画「NEXT STEP 10」のアップデート

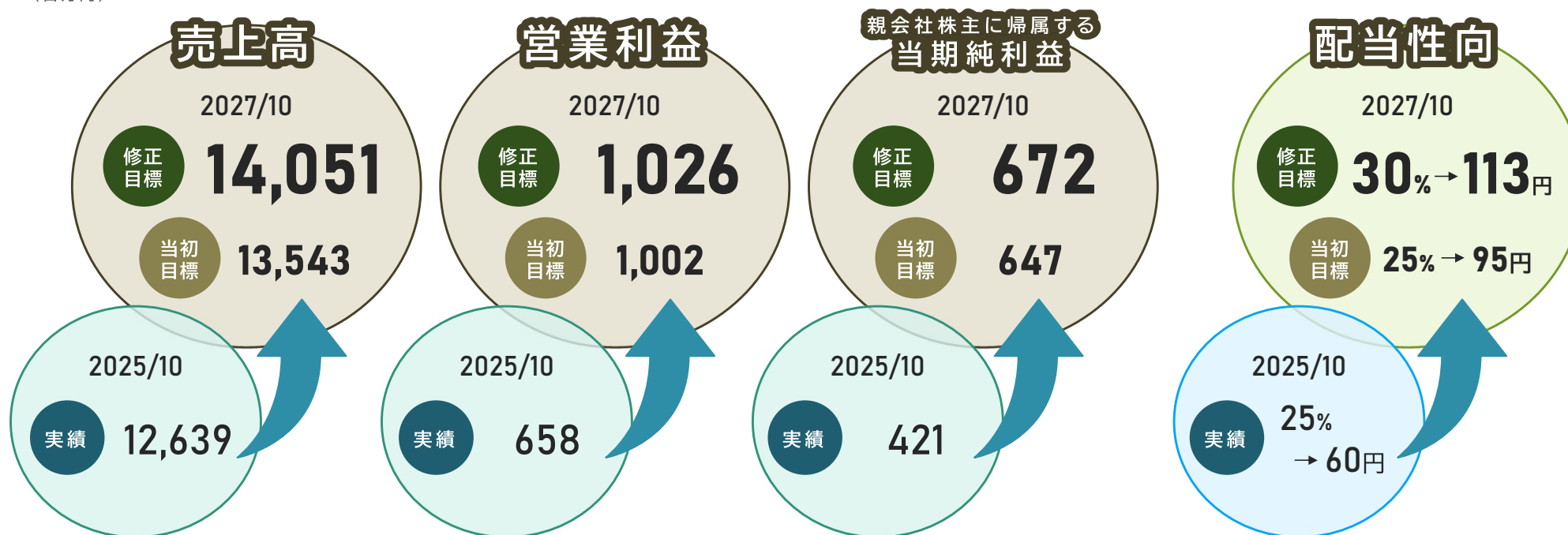
主力の木材事業は中国経済の低迷が長期化、輸出梱包関連の荷動きは伸び悩みの状況にあって、ハウス・エコ事業において想定を上回る受注増が見込まれる。
これにより中期経営計画最終年度(2027年10月期)の経営指標等の見直しを実行。

見直しの背景	「Mグレード認定」取得の1年前倒し	2024年3月に鉄骨製作等における「Hグレード認定」取得(Mグレード認定の1つ上のグレード)の寿鉄工株式会社がグループ入り。
	人材確保	2025年10月期にハウス・エコ事業において人材の採用が着実に進展。前期比14名増の105名体制となる。
	株主還元	自己資本と有利子負債のバランス(D/Eレシオ0.8倍以下)が図られ財務体質の健全化が進む。2026年10月期より配当性向の目安を25%から30%へ引き上げ(1年前倒し)。

経営指標

株主還元

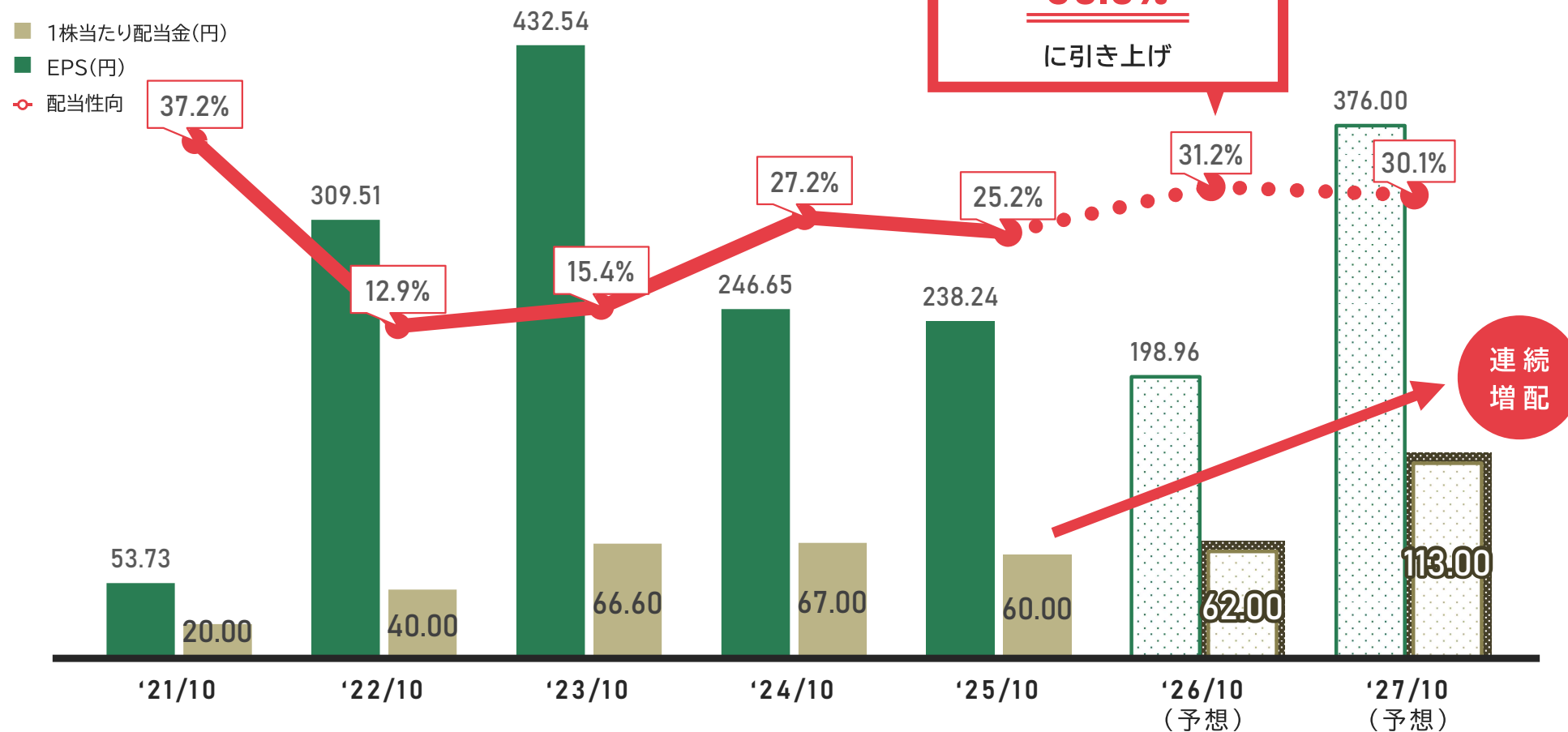
(百万円)



株主還元の基本方針

安定配当を継続し、業績の見通しや将来の事業計画、経営安定化等のための内部留保を総合的に勘案して決定

- 連結配当性向の目安を25%から30%へ引き上げ
- 最低配当金額を年間20円とする



本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。



IR 担当 窓口

株式会社オービス 経理部

- ・ TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624
- ・ E-MAIL: ir@orvis.co.jp
- ・ URL: <https://www.orvis.co.jp>